

提供日 2021/04/23
 タイトル マダニに咬まれないように注意しましょう！
 担当 健康福祉部 感染症対策局感染症対策課
 連絡先 感染症対策課感染症対策班、環境衛生科学研究所微生物部
 TEL 054-221-2986(感染症対策班)、054-625-9127(環境衛生科学研究所)



1 要旨

春から秋にかけてマダニの活動が盛んになる時期です。レジャーや農作業などで野山や草むら、畑などに入るとマダニに咬まれることがあります。マダニが病原体を保有していると、咬まれた人が「日本紅斑熱」、「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」などの感染症にかかる危険性があります。これらの疾患にかからないようにするために、野外でのダニ対策が重要です。

2 主な感染症

(1) 日本紅斑熱

- 日本紅斑熱リケッチアという病原体を保有するマダニに咬まれることで感染し、人から人へ感染して広がるものではありません。
- マダニに咬まれてから、2日から8日の潜伏期間の後、高熱、発疹が現れ、重症化した場合には、死に至ることもあります。
- 令和2年には県内で8例発生報告(死亡事例はなし)されました。

(2) 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

- 感染経路は、SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることが中心ですが、血液等の患者体液との接触により人から人への感染も報告されています。
- マダニに咬まれてから、6日から14日の潜伏期間の後、発熱、消化器症状などが現れ、重症化した場合には、死に至ることもあります。
- 県内では、令和3年3月5日に初めて患者が報告されました。本事例では、動物との接触を介して感染したと推定されますが、県内で採取したマダニから、SFTSウイルス遺伝子が検出されています。

3 注意喚起

(1) マダニに咬まれないようにしましょう！

- 特にマダニの活動が盛んな、春から秋にかけて注意が必要です。
- レジャーや農作業などで、野山や草むら、畑などに入る場合は、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくしてください。
- マダニ用に市販されている忌避剤はありますが、マダニの付着を完全に防ぐことはできませんので、他の防護手段と組み合わせて対策を取りましょう。

(2) 屋外活動後は、マダニに咬まれていないか確認しましょう！

- マダニに咬まれた場合は、数日間、体調の変化に注意しましょう。
- 発熱等の症状が見られたら、早めに医療機関を受診し、マダニに咬まれた可能性のあることを伝えましょう。

4 日本紅斑熱の過去5年間患者数 (人)

令和3年は4/11時点

年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
全国	277	337	305	318	421	14
静岡県	2(1)	6(2)	3※	10(1)	8	0

()内は死亡患者数再掲
 ※平成29年10月に発症したが、検体量が少なく平成30年に入って診断された事例1件を含む。

5 SFTSの過去5年間患者数 (人)

令和3年は4/11時点

年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
全国	60	90	77	101	78	16
静岡県	0	0	0	0	0	1